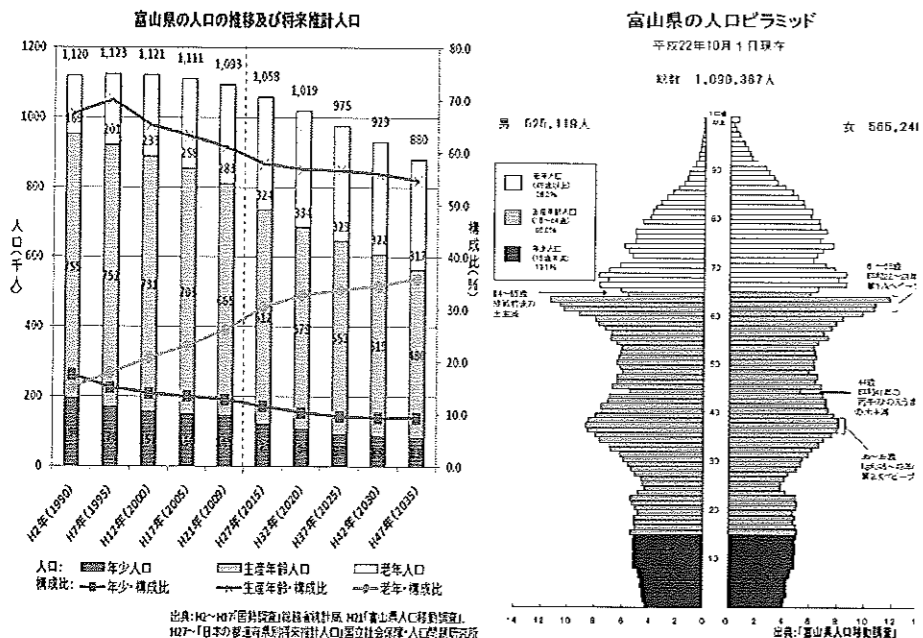


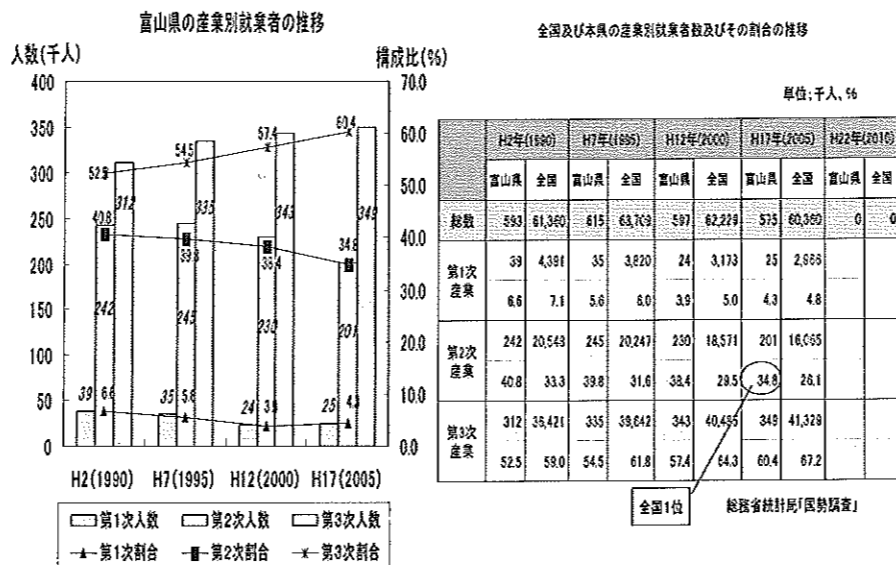
1 本県の人口推移

- 本県の人口は、平成10(1998)年の、1,126千人をピークに減少。20年後には、約93万人となる見込み。
- 生産年齢人口(15~64歳)は、平成2(1990)年をピークに減少を続けている。
- 昭和22~24年生まれの第一次ベビーブーム生まれの方が、平成19~21年に60歳定年を迎えたが、今後も、本県産業を支えてきた世代が定年退職を迎える。



2 産業構造の状況

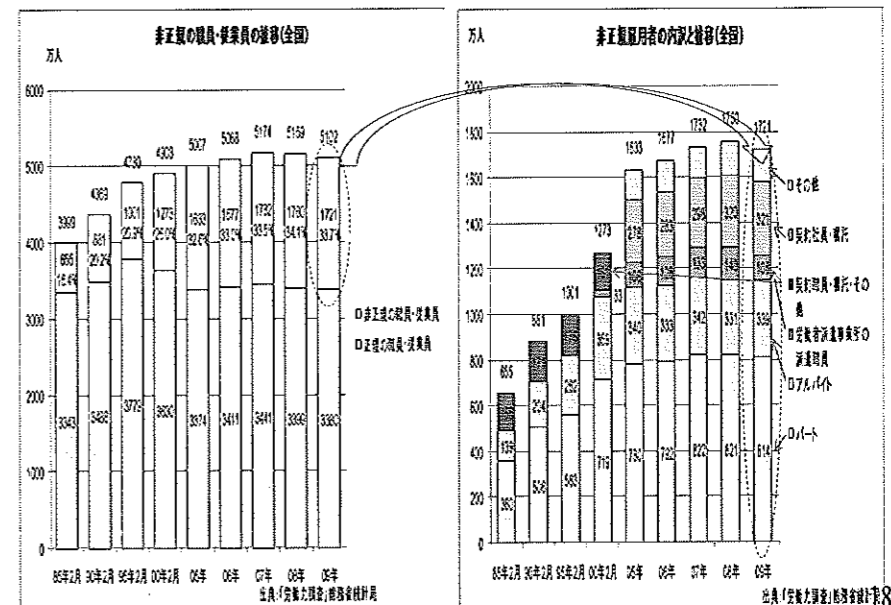
- 本県の第2次産業(製造業、建設業、鉱業)の従事者の割合は、平成17年の国勢調査では34.8%で、全国第一位となっているなど、本県は、全国有数のものづくり県。
- 一方、本県においても全国同様、第2次産業の就業者は減少し、第3次産業の従事者が増加する傾向にある。



17

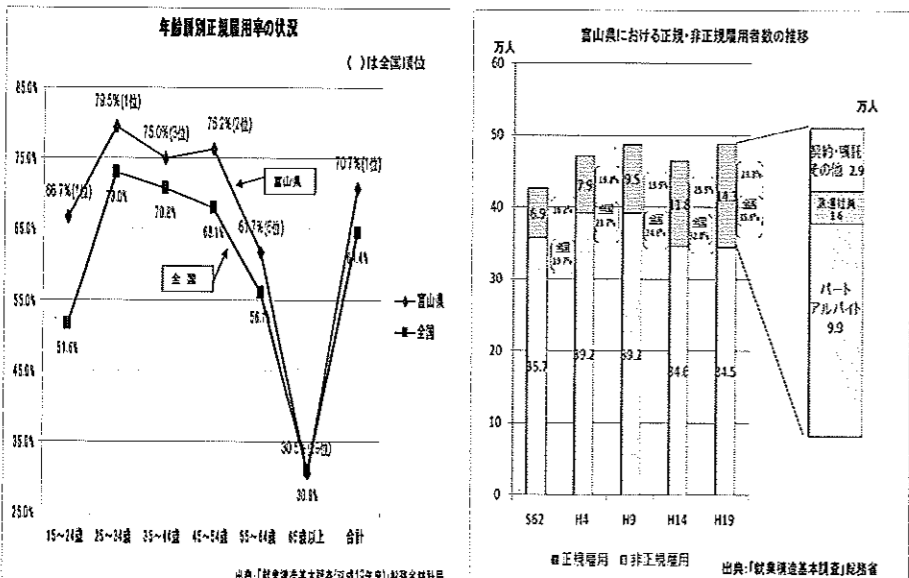
3-1 労働者の雇用形態の状況 ~全国の状況~

- 近年、全国的に、正規雇用者が減少する一方、非正規雇用者が増加。とりわけ、派遣、契約社員の増加が顕著となっている。



3-2 労働者の雇用形態の状況 ~本県の状況~

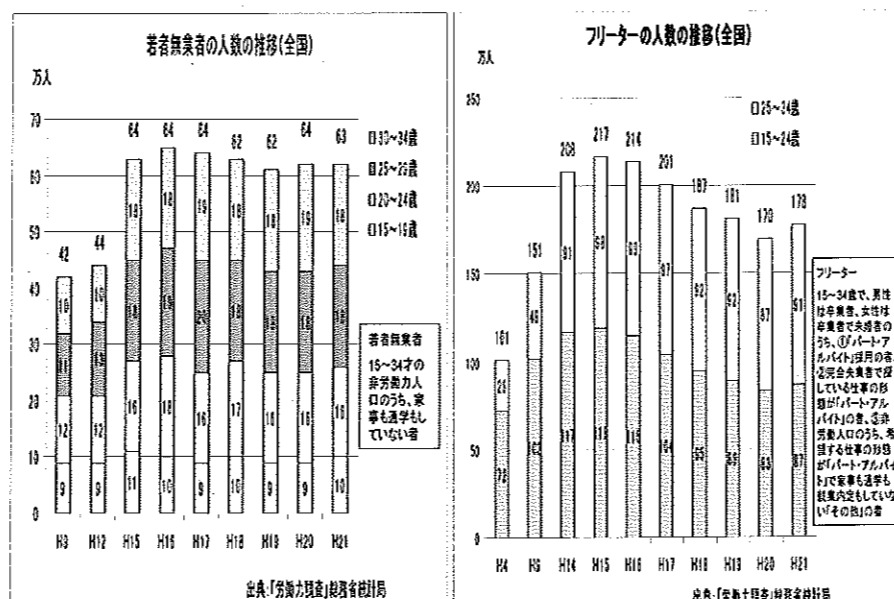
- 全国的に非正規雇用者が増加する中、本県でも同様の傾向が見られるものの、雇用全体に占める正規雇用者の割合は70.7%(H19)で全国第1位。全国平均の64.4%を6ポイント以上、上回っている。
- また、年齢層別には、若年層(34歳以下)の正規雇用率が全国第1位で、若年層の雇用が全国的に大きな課題となっている中で、高校、大学卒業生の就職状況とともに、若年層の雇用環境は全国的に高いレベルにある。



19

4-1 若者の就業状況 ~ニート・フリーターの状況~

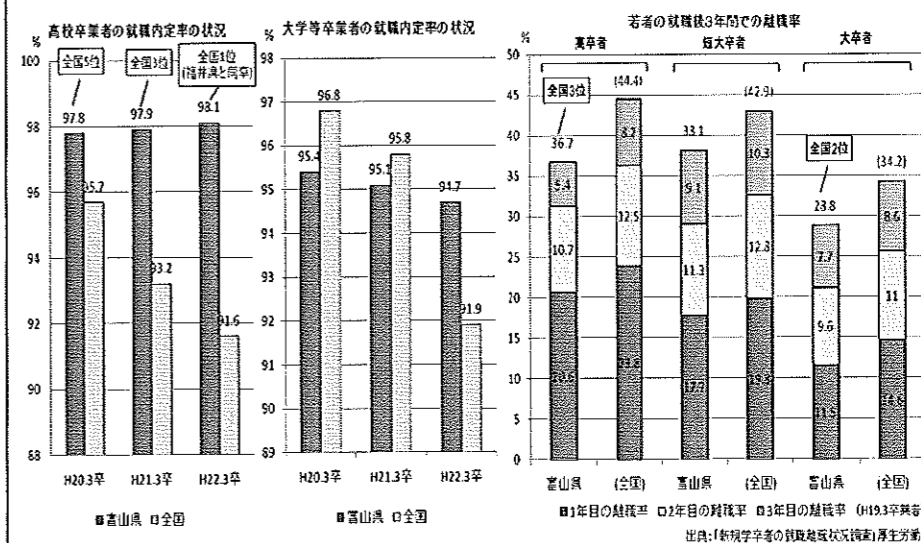
- ニートと呼ばれる若年無業者は、高水準の状態を維持しながら推移。
- フリーターについては、やや減少してきているものの、滞留傾向が懸念される年長フリーターの正規雇用化が、引き続き重要な課題となっている。



20

4-2 若者の就業状況 ~若者の就業状況~

- 世界同時不況下の厳しい就職環境から、平成20年度以降、全国的に高校、大学等卒業生の就職率が低下。また、卒業・就職後3年以内に離職する者の割合は、全国的に依然として高水準にある。
- 本県の平成21年度の高校卒業生の就職率は全国第1位となった。また、高校、大学等の卒業生の定着率は、全国平均と比較して高い状況にある。



21